

日時：平成 24 年 11 月 20 日 10:00～12:00

場所：貸し会議室 LEN

出席者：内藤，菊池，高橋，重村，並河，松島，清木，橘，沓澤

欠席者：坂上，佐々木，伊藤，西村，若井，後藤，森川

議題：

- ・ 内藤副支部長から，冒頭挨拶があった。

1. 10 周年記念事業の方針について 【資料 1】

2. 資金，今後の予定・進め方について 【資料 2】

- ・ これまでの準備状況と方針について，高橋から説明があるとともに，菊池幹事長から補足説明があった。

- ・ その後，フリーディスカッションがあり，以下のような意見が出た：

【体制・開催時期について】

- 来年度は県グループ，再来年度は東京でという分けは無理があるので，2 年間で実施することよい。（菊池）
- 研究委員会にも，企画を出してもらうのが良い。（清木）
→ その予定である
- 土木学会 100 周年と被るため，イベントを共催しても良いか。（清木）
→ 問題ない
- 会員の皆さんに 10 周年企画の提案を求めることも考えられる。（菊池）

【企画案について】

- 10 周年事業として小学生向けイベントグッズ（ジオラマ，模型実験装置など）を整備して，県 G や大学等のイベントに貸し出してはどうか。（松島）
- 市民に対する啓蒙のための，一般向け図書を作ることも考えられる。（松島）
- 「地盤」を市民に説明するのは難しい。地質調査業協会では，それ（地盤や地下水，地盤災害など）を説明するためのパンフレットを作って，配布している。国交省砂防でも，防災に関する教育用教材の整備を進めていて，協会も協力している。市民向け啓蒙活動は重要だが，あわせて，会員向けのイベントも実施すべきである。（内藤）
- 小学生向けなら，夏休みに合わせてイベントを開催すれば，自由研究の題材となるので，集客が期待できる。（高橋）
- 小学生向けイベントを撮影して，その動画を公開するなどすれば，良い宣伝になる。（松島）
- 良い活動をすれば，記事になると思って活動しているが，実際には難しい。はじめは自ら一般紙等に広告を出すなどしていく必要がある。（沓澤）
- 新聞社などと記事の持ち込みを交渉し，シリーズで地盤工学会の活動をアピールする企画を掲載。（清木） → 新聞社にある程度深い繋がりがあることなどが前提となる。

- コンクールものはやりたい（絵画，テーマは「地盤」よりは「土」「岩」の方が良い）．懸賞論文もある（会員から募集，展望などを書いてもらう）．また，記念グッズを作ってみんなに配りたい．（菊池）
- 3次元的な地盤構造物のモデル（例：ジオラマ）作成を募集するのもあってよいかと考えられる（清木）．コストや置き場所が問題なので，アイデアを募集した方が良い．ジオラマ以外に教材についても，同様の募集が可能．（沓澤，高橋）
- 千葉県での開催となると，ジオパーク（銚子）もあるが，地質寄りである．博物館（佐倉にある国立歴史民俗博物館）とのタイアップも考えられる．（沓澤）
 - 地質の話に，人々の生活にかかわってくれば，地盤工学の問題となるため，地質寄りであるとの心配は不要である．（松島，菊池）
- GeoKanto は，本来北関東の活性化を目的としたものであったが，本年度から南関東の会員増強に特化する方向となった．（菊池）
 - 北関東は別途対応する必要であるが，北関東で別の発表会を行うのではなく，県 G による GeoKanto のセッション運営が一例．（菊池）
 - 県 G のセッション運営は少々無理があるので隔年開催など，支部発表会 G と対応を相談する．（松島，清木）
- 地域性を踏まえた市民向け講演会ができたらよい．市民が気になるのは，自分の住んでいる場所の問題なので，その様な具体的な話ができるとうい．（重村）
 - 地質調査業協会でも相談会はよくやっている．協力も可能．（内藤）
- 市や区の市民講座などに売り込むことも考えられる．次年度のスケジュールが決まる前に行くのが良い．（菊池）
 - 協会は任意団体なので，断られることも多いが，公益社団法人なら，話を聞いてもらえるのではないか．（内藤）

3. その他

- ・ 年内に各 G からアイデアを出していただき，年明けに開催する第 2 回準備委員会で披露いただくと共に，意見交換を行う．開催日時については，日程調整を後日行う（1 月中に開催）．
- ・ 上記を踏まえて，10 周年事業経費を，来年の運営委員会の予算に反映していただく．
- ・ 栃木県 G は，シンポジウムを実行委員会で運営する形式を想定していることを説明し，概ね賛同を頂いた．また，会計の仕組みは，支部青木さんと相談しながら詰める．（清木）
- ・ 支部 10 周年を会員の皆様に意識してもらえるよう，10 周年ロゴマークを作る．
- ・ 支部として実施すべき事業（例えば，コンクール，記念グッズなど）については，別途委員会等を立ち上げるか，既存グループ内に作業グループを作るなどして，計画・実施する．
- ・ この委員会は，各 G の意見調整の役割を担い，相談事項は支部執行部と行い，意志決定は，あくまでも支部運営委員会である．

配布資料：

1. 10 周年記念事業の方針（案）について
2. 特定費用準備資金・当初計画について
3. 土木学会 100 周年事業について（参考）